



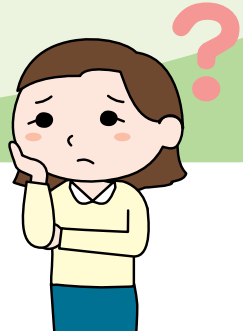
満開の桃畑はむささぎの海。甲州勝沼にて。

撮影：川野信之

発行 社団法人 相模原市医師会

耳鼻科医に聞いてみたいこと

普段、多くの患者さんにお会いし、よく質問を受けます。今回はそのなかでよくある代表的な疑問にお答えします。



Q1 父に補聴器を作りました。音はよく聞こえるようですが、聞き返しが多く、雑音がうるさいとあまりつけてくれません。どうすればよいでしょうか？

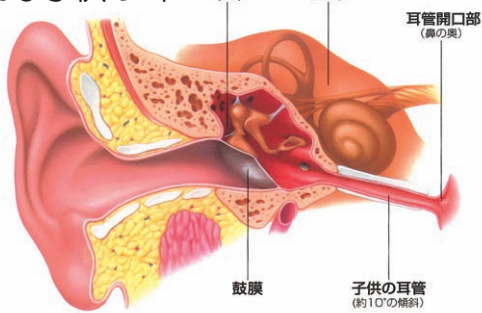
A 老人性難聴は、内耳と内耳より中枢（脳までの神経と音や言葉を判断する脳細胞）に問題があることが多く、克服すべきことが複雑です。メガネのように作ったその日からよく見えるようにはいきません。まずは補聴器をつけるきっかけはどうだったのか思い出してみましょう。本人が積極的に補聴器を使いたいかが重要です。うまく使いこなすには、難聴自体の理解、補聴器のフィッティングと作製、補聴器の機能と限界の理解、装着訓練、使用訓練など時間と根気が必要です。

雑音に関しては、語音明瞭度の低下による可能性が考えられます。お話するときは、なるべく相手の正面に正面して口元をよく見せ、ゆっくりと話しましょう。大きくゆっくり話せば聞き返しが減り、一度で理解してもらえます。雑音に関しては、健常者にも聞こえていることを理解してもらった上で、さらに補聴器自体の設定を調節することにより解決できる可能性が充分あります。補聴器がピーピーと音をたてる、いわゆるハウリングの改善技術も最近進歩してきています。認定補聴器専門店には、認定補聴器技能者が常勤しています。時間がかかる作業ですので、予約を取って、補聴器の調整を行ってください。補聴器を作製して、年数が経過している場合には、難聴の進行も考えなければなりません。聴力の再評価を耳鼻医に相談しましょう。

Q2 子どもが滲出性中耳炎と診断されました。将来難聴が残るのではないかと心配です。大丈夫でしょうか？

A 滲出性中耳炎は、鼓膜の動きが悪くなり軽度の難聴をきたす比較的小児に多くみられる疾患です。痛みを伴わず、呼びかけに反応しない、聞き返しが多いなどで気づくことが少なくありません。原因は、急性中耳炎の経過が思わしくない場合や、耳管機能の障害、鼻の慢性的な炎症などが挙げられます。適切な治療を受けると、良くなること多い疾患であり、難聴が残る可能性は低いと言えます。しかし、少数ですが治りにくい状態におちいり、さらに癒着性中耳炎、コレステリン肉芽腫、真珠腫性中耳炎などの後遺症を残すことがあります。この

正常な子供の耳



「急性中耳炎」(監修 名古屋市立大学名誉教授 馬場駿吉) より提供: 明治製菓株式会社

ような難治性の後遺症を残さないことが、われわれ耳鼻科医の役割ですが、ご家族の方にもご協力願いたいことを挙げておきます。

まずは、急性中耳炎への関心です。2歳までは免疫が未熟なことが多く、さまざまな感染症にかかりやすいのですが、急性中耳炎も例外ではありません。耳を気にしたり、機嫌が悪く熱が下がらない場合は、放置することなく耳鼻科にかかりましょう。急性中耳炎の治療中は医師から完治したと診断されるまで薬を自己判断で中断せず、しっかりと飲ませましょう。耳の後ろにある乳突蜂巣という空気の部屋の発育は乳幼児期から始まっています。耳の炎症を放置するとこの発育が妨げられ、長引く滲出性中耳炎の

弥生と聞いただけで「早春」気分となり活動的になれます。皆様方はいかがですか。

今回のテーマは、花粉の季節には特にお世話になります「耳鼻科医に聞いてみたいこと」と、高齢化にともない視力障害の原因として注目されております「加齢黄斑変性」です。

よくある耳鼻科医への質問の答えや「加齢黄斑変性」の早期での見つけ方や治療法を取り上げています。明日への健康に向けご活用ください。

原因になってしまいます。次にアレルギー性鼻炎や副鼻腔炎の治療を積極的に行いましょう。鼻に炎症があると、耳と鼻の奥をつなぐ耳管が正常に機能せず、滲出性中耳炎におちいりやすい状態となります。特に炎症が強くと鼻閉があり、鼻がうまくかめないのはよくありません。鼻すすりはなるべくしないで、片方ずつ優しく鼻をかむことを教えてあげてください。最後に、母乳は赤ちゃんの最良の栄養です。赤ちゃんの成長に必要な栄養素が含まれるほか、さまざまな免疫物質が赤ちゃんを病気から守ります。できるだけ母乳で育てましょう。喫煙は室外でお願いします。

(相模原市医師会 新田 光邦)

ポリオの予防には、ポリオワクチンの接種が必要です

国(厚生労働省)では、予防接種法に基づく定期予防接種(公費による無料接種)で使用している生ポリオワクチンを、できるだけ早く不活化ポリオワクチンへ切り替えるよう取り組んでいます。導入までポリオワクチンの接種を待つことは、おすすめてできません。接種せずに様子を見る人が増えると、免疫をもたない人が増え、国内でポリオの流行が起こってしまう危険性があるからです。世界には今でも流行している地域があり、渡航者などを介して感染はどの国にも広がる可能性があります。

ポリオを予防するには、ポリオワクチンを接種することが唯一の方法です。現在の実施方法は次のとおりです。

- ・生ポリオワクチン 相模原市が定期(集団)予防接種で実施(4~5月と9~10月)
 - ・不活化ポリオワクチン 日本ではワクチンが承認されていないため、医療機関が輸入し任意接種(自費)で実施
- 定期予防接種にかかわるお問い合わせは、相模原市保健所疾病対策課 予防接種班まで 直通 ☎042-769-8346

相模原市医師会事業課

子ども予防接種週間のお知らせ

期間：平成24年3月1日(木)~7日(水)

主催：日本医師会、日本小児科医会、厚生労働省

予防接種に対する関心を高め、予防接種率の向上を目的として、上記期間を「子ども予防接種」といたしました。

期間中、協力医療機関において、通常の診療時間帯に予防接種を受けにくい人々に対し、予防接種をおこないます。

※子ども予防接種週間における協力医療機関のお問い合わせは、相模原市医師会事業課まで ☎042-756-1700

休日・夜間の急病診療制度の利用

まず、かかりつけの医師に相談してください。かかりつけの医師が不在、近所の医療機関で診療が受けられない方は

☎042(756)9000
相模原救急医療情報センターへ
お電話してください。

	午前9時	午後1時	午後5時	午前9時
平日				
土曜日				
休日				

…電話受付時間

市民のみなさんへお願い

- ◇診療可能な医療機関を案内します。
- ◇医療相談・歯科案内は行なっていません。
- ◇急病で困ったときに利用してください。
- ◇応急診療が目的ですので、翌日はかかりつけの医師または近所の医師の診察を必ず受けてください。
- ◇健康保険証を必ず提示してください。されない場合は自由診療扱いとなり、費用が高額になります。
- ◇救急車は、生命に危険が生じた患者さんを一刻も早く運ぶためのものです。安易な利用は避けてください。
- ◇歯科の急病については休日急患歯科診療所 ☎042(756)1501へ(ウェルネスさがみはら2階)
- ◇服用している薬がある場合は、お薬手帳もしくは処方された薬をお持ちください。